

2022年度
第1回 理事会議事録

2022年 4月 25日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2022年度 第1回理事会議事録

1. 日 時 2022年 4月 25日 (月) 14:50～17:00

2. 場 所 沖縄県青年会館 梯梧の間 (那覇市)

3. 構 成 員 16名

4. 出席構成員 14名 (別紙 出席者名簿参照)

5. 議 事 次 第

(1) 開会の辞

(2) 定足数確認報告 (定款第36条)

(3) 会長挨拶

(4) 前回理事会議事録の確認

(5) 報告事項

1) 鉄骨材料の調達状況について

2) WG活動状況報告

①災害時のBCP策定WG

②事業継承対策WG

③日報デジタル化検討WG

④リモート製品検査検討WG

⑤ホームページ改造WG

⑥国際ウェルディングショー出展WG

3) その他

①教育センターへの要望(教本・試験へのルビ付記)に対する回答

②第55回総会(6月15日開催予定)の開催要領

③鉄骨製作支援協議会から鉄骨技術者教育センターへの基金拠出 その他

(6) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

3) 主要会議日程

4) 支部報告

(7) 閉会の辞

6. 議 事 要 旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、理事総数 16 名のうち、山本副会長、寺田理事(北陸支部)が欠席、また、岩永理事(九州支部)は遅れて出席される予定で、本理事会の出席理事は 14 名となり、定款第 36 条(理事会の定足数)に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事は 3 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長が「この 2 年間の理事会は、コロナ禍のためほとんどがオンライン開催となり、皆さんにはご不便をお掛けしたので、改選前に気分を晴らす意味も込めて地方開催とさせていただきました。本日の議題は報告事項のみですが新鮮な気持ちで議論いただきたい。」との挨拶をされた。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 報告事項

1) 鉄骨材料の調達状況について

鋼材のみならず塗料等副資材も含めた鉄骨材料の価格上昇とともに品薄感がさらに強まり調達難となっていることをふまえ、主要鋼材等の需給・納入状況及び価格動向について商社等関係業者から聴き取り調査を行った結果 及び 技術委員経由で調査した各支部の状況が議案書[理 22-1-報 1]<p3-10>により示され、各支部の状況については、後刻 議題 6-(4)の「支部報告」の中で説明することとした。

2) WG活動状況報告

①災害時のBCP策定WG

災害時のBCP策定WGのメンバー、目的、成果物の概要、及び 今後実施する予定の成果物の周知活動の実施方法等について、議案書[理 22-1-報 2]①<p11-13>にそって大竹理事から報告された。

②事業継承対策WG

事業継承対策WGが構成員企業を対象に実施した本課題に関するアンケート調査結果、本課題の視点・検討フローの整理、今後の取組み課題等について、議案書[理 22-1-報 2]②<p15-23>にそって出雲理事から報告された。

③日報デジタル化検討WG

日報のデジタル化のメリット、既成の市販ソフト 3 種類の特色の紹介、ソフトの導入手順等について、議案書[理 22-1-報 2]③<別冊 A>にそって井原理事から報告された。

また、既成の市販ソフトの価格について確認するよう米森会長より指示された。

④リモート製品検査検討WG

リモート製品検査検討WGのメンバー会社で実施した模擬リモート検査で明らかになった留意点等を含め、検討を重ねた成果として取りまとめた「リモート製品検査 実施マニュアル」〈別冊B〉にそって、リモート製品検査の概要、使用機材、撮影方法、諸書類作成例等について佐藤理事から報告された。また、同理事より以下のコメントがあった。

- ・検査対応人数に制約があるM・Rグレードのファブでも実施可能な内容にした。
- ・検査の実施主体者であるゼネコン(日建連)、設計者(JSCA)の意見も取り込んで作成した。
- ・機材の進歩、検査の正確性・効率化に対する考え方 等の変化に応じて随時修正することが必要である。

⑤ホームページ改造WG

ホームページリニューアルの基本方針、主な改良点等について、議案書[理 22-1-報 2]⑤〈p25-27〉にそって渡辺理事から報告された。また、公開時期について、当初予定は3月下旬であったので、これに間に合うようデザイン、構成、コンテンツ等のデータは既に完成しているが、データの保管庫となるサーバーに関し当初予定していたS社のサーバーの技術的な問題により作業が難航し予定外の時間を要し、さらに他社のサーバーへの変更を余儀なくされたことなどにより、公開時期は5月下旬にずれ込んだことが報告された。

⑥国際ウェルディングショー出展WG

国際ウェルディングショーへの出展目的、出展内容、招待券配布等について、議案書[理 22-1-報 2]⑥〈p29〉にそって高橋監事から報告された。

※ 米森会長より、各WGで検討を重ね、その結果を充実した成果品として取りまとめたことに対して謝意が述べられた。

また、各成果品を作成しただけで終わりとせず、構成員に活用されて初めて価値が生じ、WGメンバーの努力も報われるものであることをふまえ、各県組合の総会を、各テーマの成果の周知と利用促進の機会として活用するよう指示された。

3) その他

①鉄骨技術者教育センターへの要望(教本・試験へのルビ付記)に対する回答

九州支部からの依頼を受けて第4回理事会(2021年11月16日開催)において協議の結果、教育センターに検討を委ねた「鉄骨製作管理技術者教本等の漢字ルビの付記」に関して、同センターより「センター内で検討の結果、対応を見合わせる」とする旨の回答があったことが、議案書[理 22-1-報 3]〈p30〉にそって小貫専務理事より報告された。

②第 55 回総会(6 月 15 日開催予定)の開催要領

6 月 15 日開催予定の総会の開催形式等について、小貫専務理事より以下のとおり説明され了承された。

- ・総会是对面で開催する。(対面出席を希望しない方は書面決議していただく)
- ・総会後の、外部関係者を招待した懇親会は行わず、総会に出席した会員等だけの会食を着席形式で実施する。
- ・平常時に招待している賛助会員、学識者、関連団体等に対しては、懇親会を開催しない旨の案内を発出する。

③鉄骨製作支援協議会から鉄骨技術者教育センターへの基金拠出 その他

米森会長より以下の報告があった。

- ・鉄骨製作支援協議会の財産約 8,000 万円のうち 5,000 万円を鉄骨技術者教育センターの基金として追加拠出することとした。
- ・鉄骨技術者教育センターの役員改選にあたり、甲津理事長より退任のご意向が示されたため、後任を河野・九州大学名誉教授にお願いすることとした。
- ・鉄骨技術審議会のメンバー 5 名が規定年齢に達するため退任され、代わりに 6 名の方に加わっていただいた。
- ・鉄骨技術アドバイザー会議メンバーについても、若返りを図るため新メンバーを募りたいと考えているので適任者の推薦をお願いする。

(6) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2022 年 3 月 31 日時点の構成員登録数は 2,194 社で、前回報告時より 12 社減少したこと等が、議案書[理 22-1-他 1]により事務局から報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2022 年 2 月の鉄骨推計需要量は約 34.2 万トン(前年同月比 7.8%増)であることなどが、議案書[理 22-1-他 2]により事務局から報告された。

3) 主要会議日程

2022 年度の主要会議日程が議案書[理 22-1-他 3]により確認された。

4) 支部報告

〔北海道〕

- ・前回報告以降大きな活動は行っていない。
- ・手持工事量は、H が 5～9 ヶ月、M が 1～9 ヶ月、R・J が 1～3 ヶ月。
- ・稼働率は、75～100%と高い水準を維持している。
- ・見積件数は、増加傾向がみられ多くの地区で普通程度。ただ、中小物件が少なく、一部で競争激化による値下げの話もある。
- ・価格は、鋼材の値上げを転嫁できず加工費に皺寄せが生じている。
- ・鋼材の入手状況について、BCP の納期は 12～14 ヶ月であったが、最近は納期の回答はできないと言われている。

- ・BCRは6ヶ月以上と言われている。
- ・価格は、BCP、BCRとも4万円以上の値上げが唱えられている。ただ、様々な情報が入り乱れており、実際の値上げ幅がわからない状態である。
- ・日本製鉄が値上げの先導役となっており、顧客の日鉄離れがみられる。
- ・納期の長期化にも拍車がかかっている。

〔東北〕

- ・4月13日に支部会を開催し、次期支部長、運営委員、技術委員が決まった。
- ・手持工事量は、Hが6～12ヶ月、Mが2～12ヶ月、R・Jが1～5ヶ月。
- ・稼働率は、70～100%。
- ・見積件数は、資料のとおりで県・地域により大きな差がある。
- ・価格は、鋼材価格の値上げに追いつかない。
- ・鋼材納期の長期化に対応して先行発注した結果、製作時期前に引取り要求があり仮置場の確保が必要になるケースが出ている。
- ・BCPの価格は1年で6万円上昇、さらなる値上げが唱えられている。納期は1年以上と言われている。
- ・BCR価格は1年で7万円上昇、さらなる値上げが唱えられている。
- ・今後の価格見通しについて、メーカーからの明確な回答は得られない。
- ・切板価格は案件ごとに異なる。
- ・H形鋼価格は1年で4～6万円上昇。
- ・鋼材のみならず、塗料、溶接ワイヤー等の副資材価格も上昇している。
- ・これらの価格上昇を鉄骨価格に転嫁できず、大きな課題になっている。

〔関東〕

- ・3月5日に支部運営委員会を、3月24日に支部会を開催した。支部会には各県組合副理事長も参加いただくことが決まっているが、コロナ禍で実現できていない。感染再拡大がなければ4月以降ようやく実行できそうである。
- ・支部事務局の引継ぎを5月11日に行う予定である。
- ・手持工事量、稼働ともに、資料のとおりで、県、地域により大きな差がある。
- ・見積物件数は、山梨は少ないが、概ね普通程度である。
- ・地場案件で先送りになるものが散見されるようになった。
- ・価格は、資料のとおりで、前回から大きな変化はない。
- ・鋼材、塗料等の納期・入手状況及び価格動向については、他支部と同様の状況で、関東の特筆すべき傾向はみられない。

〔中部〕

- ・各県の3月の理事会は開催された。
- ・3月30日に支部会を開催し、次期支部長、運営・技術両委員を選任した。
- ・手持工事量は、Hが3～14ヶ月、Mが1～10ヶ月、R・Jが1～8ヶ月。
- ・稼働率は、40～160%で大きなバラツキがある。
- ・見積物件数は、静岡は少ないが、概ね普通程度である。
- ・鋼材価格上昇の鉄骨価格への転嫁が遅れており加工費を圧迫している。
- ・鋼材納期の長期化も進み、BCRは14～18ヶ月、BCR、BHはまともな回答が得られない。塗料は、品薄感はあるが目立った納期遅れはない。しかし価格は上がっている。

〔近畿〕

- ・各県の活動は概ね対面で行われるようになった。
- ・3月24日に支部会を開催し、材料の入手状況及び価格について意見交換した。次回支部会は6月10日に新旧メンバー合同で開催し、その翌日は商社会の懇親行事を行う予定である。
- ・また、関西鉄骨研究会を同日に開催した。
- ・手持工事量、稼働率は資料記載のとおりで、見積件数は普通程度である。
- ・価格は他地区より低めであると認識しており、2万円／トンの改善を目標にしている。しかし、利益を圧迫されている事業者は多く、今期決算の内容が気掛かりである。
- ・県や市が発注する公共物件に関して、発注者の、材料価格高騰への対応が遅れており、不落物件が散見されるようになった。
- ・このような混乱がみられる中で、様子見のため新規受注を控える事業者もある。

〔中国〕

- ・4月13日に、米森会長、小貫専務理事にも出席いただいて支部会を開催した。
- ・手持工事量は、Hはだいぶ先の仕事まで確保できているが、M、R、Jはバラツキが大きく、苦労している事業者もみられる。稼働率も同様である。
- ・見積件数は少なく、特に公共物件の落込みが顕著である。
- ・材料価格は、月ごとに上昇しており、ゼネコンに提示する見積額が定まらず苦慮している。

〔四国〕

- ・3月28日に支部会を対面で開催し、次期支部長、運営・技術委員を選任した。溶接ヒューム規制対策、材料価格高騰への対応等について意見交換した。
- ・見積物件数は少なく、価格も安い。四国内のHファブの半分以上は、近畿等四国以外の物件を対象に営業しており、M、RファブはHファブの2次下請けで凌いでいる。
- ・ただ、秋以降に発注予定の物件が少し見えてきており、これに期待している。
- ・材料価格高騰、入手難への対応として、行政機関、ゼネコン、設計会社等への説明を県ごとに行っている。

〔九州〕

- ・4月19日に支部会を開催した。支部内で新規に立上げ予定の技術委員会の委員等を決める予定であったが5月に延期になった。
- ・手持工事量、稼働率、見積物件数について、前月から大きな変化はない。Hグレードは比較的順調だが、M以下は苦慮している。
- ・商社介在物件が増加しており、価格も二極分化している。
- ・今後、大型物件の発注が予定されており、工場製作は対応できると思うが、現場建て方対応要員の不足が懸念される。
- ・材料価格高騰、入手難については、他支部と同様の状況で、コラム材が特に深刻である。納期が更に長期化する傾向はみられないが、価格の上昇は続いており、ゼネコンに提出する見積りに苦慮している。
- ・消費税のインボイス制度導入を来年に控え、任意団体である支部の対応について議論になっている。

(7) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>
会 長	米 森 昭 夫
副 会 長	永 井 毅
〃	大 島 嗣 雄
専務理事	小 貫 武
常務理事	大 橋 利 勝
理 事	佐 藤 正 記
〃	渡 辺 勝
〃	大 竹 良 明
〃	多和田 桂 太 郎
〃	出 雲 津 芳
〃	福 田 秀 章
〃	井 原 常 裕
〃	岩 永 洋 尚
〃	辰 巳 功
監 事	村 上 眞 樹
〃	野 田 博 文
〃	高 橋 伸 和

理事総数 16名 うち出席者 14名 [欠席：山本副会長、寺田理事]
監事総数 3名 うち出席者 3名